

こぶし だより

働く障害者も
SSKW
働けるんだオレたちも



オリオン通りにて署名活動

CONTENTS

- ① トピックス……………2P～3P
- ② 特集「こぶしの会 新年への期待」……………4P～6P
- ③ サポートース……………7P
- ④ アドレス・編集後記……………8P

No. 335

2010
1

トピックス

Topics

「ぶ」の会 それぞれの現場から

きょうざれん 栃木支部

がんばるDAY・ 街頭キャンペーン報告

〈神様は誰も隅っこに行かせないように地球を丸くしたんだ〉(沖縄県立小禄高校一年 高橋秀) 《現代学生百人一首入選作》

一月九日(水)午前10時、「今度こそ私たちの実態と声からつくる、新しい法律」をスローガンにかかげて、私たちは宇都宮市の生涯学習センターに集合しました。小規模作業所問題などの解決といった、今回のテーマを再確認するうえで、私たちが廃止を唱える障害者自立支援法、この「保護する法律」から、「よそから見た自立」に駆り立てた悪法の被害者として、全国訴訟団で活動しておられる五十嵐さん(写真)の報告に、会場にいた全



五十嵐さん

員が聞き入り、決意を新たにしました。二〇〇五年、自立支援法成立のその時、五十嵐さんをはじめ、国会内のモニターを見ていた人たちの間

に、ため息と泣き声があがったそうです。

街頭に出る前のシミュレーション、注意事項などの連絡を経て、旗、プラカードなどを準備するころは、徐々に緊張感といったものも高まってきました。それにしても、参加者全員の元気なこと。おもての風を切り、オリオン通りに向かう姿はまさに「がんばる」人たちです。

東武宇都宮駅北口にはすでに「歳末たすけあい募金」の方がお二人、立たれていましたが、ほとんど声はあげていません。駅から出てこられた方で気付かれた人は出口で立ち止まり、即座に財布を準備するのです。なんとこの周知度でしょう。ひよつとしたら、毎年の恒例、習慣になつていられる方もおられるか、と思つてしまいました。我々のほうの呼びかけは、「障害者自立支援法の廃止に：」と声をあげたあたりで通り過ぎて行かれてしまいますので、簡潔な呼びかけの工夫が必要になりました。一メートルほど手前から歩み寄つて話しかけるようにして、胸からメッセージボードを吊り下げている時は、文字を隠さないようにしました。

そうしてわかつたことは、いま声をかけているのは通行人ではなく、それぞれの人間、人格と向かい合っているという、当たり前前のことでした。

「障がい者：」と言つたところでそのまま署名用紙、募金箱に歩み寄つていただけの方もおられるし、「おれも障がい者なんだ」と



拡声器で訴える

をしてくれた人たちです。

「あなたたちは、どういう立場の人たちですか?」「支援法つてやつをつくる運動じゃないの?」と、じつと腕を組んで話を聞いてくれた若い人、「廃止?」「なんか、わからないんだけど、大変なことになつていいるみたい。頑張つてください」と、社会人一年生のような初々しい容姿で、足早に交差点に消えて行った女性。そう言えば、「失礼ですけど、このなかで、どなたが障がい者なんですか」という質問にはちよつと困りました。「ええ、みんな元気です。がんばつていいるんです」とは答えたものの：。障がいって：環境だ、社会だというのがWHO(世界保健機関)の考え方です。障がい者以外の人たちは、健常者とか、一般人とかになるのでしょうか。自分がそう呼ばれた時、どこか失礼な感じがあつて、落ち着かないけど。

この日の成果は、署名二〇〇人、募金二万

返答された方もおられ、「署名はできないけど」、「お金はないけど署名だけでもいいですか」と丁寧に念を押される方も多かつたのです。ですが、嬉しかったのは、路上で足を止め、あちらから「質問」

六〇〇〇円強。直後、我々は「ひとり二六〇円だね」などと口にしましたが、実際にこの日、歩みを止めた皆さんからいただいたものはそれ以上のものでした。このような機会があれば、路上に立つことを、お勧めします。まるい地球の上の自分の立ち位置、人の立ち位置が見えるんです。ふだんから、がんばっておけばよかつたなあ。

(矢板)

「いざこのときわ荘」の移転

「こぶしのときわ荘」は、一九九九年一月一日、こぶしの会第一号グループホームとして、「すずらんの家」(芳賀町)と同時に宇都宮市元今泉町の一軒家からスタートしました。男性ばかり四人の共同生活は、にぎやかでもあり、楽しくもあり、戸惑いもありました。しかし、作業所開所以来、自宅を離れてグループで生活する「自立体験」(はじめは宿泊訓練)に参加していたなか私たちは、想像以上に早く、落ち着いた生活を築いていきました。

二〇〇二年、鑑山町に引っ越し、自立支援法と同時にケアホームとなり、現在に至ります。今年四月、こぶし作業所の新築移転と同時に、「ときわ荘」も二回目の引っ越しをすることになりました。「ときわ荘」利用者全員が、日中活動の場として、こぶし作業所を

利用していて、移転先の茂原までが遠くなくなってしまったこと、また、一般住宅を改修して使ってきたものの、現在の建物はやはり老朽化しており、特に入浴やトイレの介助には苦慮してきていました。そこで、移転を機に新しいケアホームを建てようと計画し、土地を探していました。上下水道の整備や周辺の状況などの条件が合わず、いくつかの候補地を見て回ったものの見つからずいました。ただ、設計図については、これまで「くろみ」の経験などもあり、検討を進めていました。ところがそうした状況を見るに見かねて、保護者の山崎様から、「私が建てるので、ぜひ使ってください！」との申し出があったのです。あまり時間がないこと、正直、資金の心配をせずに済むこと、こちらの希望を尊重してくださることなどを理由としました。話がたく申し出を受けることになりました。話が決



9月25日に行われた地鎮祭

まると同時に、設計図について詰めの話し合いが重ねられました。そして、昨年九月二五日地鎮祭、一月二七日上棟式が行われ、今春三月の完成に向け、いま順調に建設が進められてい



11月27日の上棟式の様子

ます。

今度のときわ荘の特徴としては次のことが挙げられます。所在地は、宇都宮市若松原、県の運動公園の近くで、休日の散歩には絶好の場所にあります。周

辺は住宅地で、コンビニには歩いて一分。定員は七名、これまでより三名増えます。建物は完全バリアフリー、お風呂は、介助で入浴できるものと一人で入浴できるよう二つの浴室を作っていただきました。洗面所二か所、洗濯機も二台設置し、雨の日でも心配ないようにサンルームもつけていただきました。そして何より九つの居室とリビング・キッチンも入れて、木造平屋建てであることがなにより素晴らしいことだと思います。

こうした手立ては、「利用者が安心して安全に、そして職員の方々の負担も少しでも少なくなるように」との山崎様のご配慮によるものです。ご近所の皆さんは、「ここに住んでよかったと言ってもらえる地域にしたい」「引っ越してきたら、茶話会を開いて交流を」と、理解を示してくださっています。引っ越し準備はこれからですが、みんな楽しんでいきます。(鈴木)

こぶしの会 新年への期待

特集



新年あけましておめでとうございます。本年は、社会福祉法人こぶしの会が設立して30周年を迎えます。

こぶしの会は、発足当初から、当事者や家族の皆様をはじめ、地域の皆様や多くの関係者の方々のご理解とご協力をいただきながら支えられてきました。30周年を迎える本年は、こぶし作業所の新築移転や家族会と後援会の連携など、新たな人との出会いやこれまでの人との結びつきがより強まっていく1年にしたいと思います。

当事者、家族、職員を代表して3人の皆さんに、新年の抱負とこれからのこぶしの会にかける期待をお話ししていただきました。

1

つばさの会会長 出口 勇樹さん

つばさの会会長になって

「つばさの会の役員に挑戦したい」という思いは、出口さん自らの希望でした。出口さんにとってつばさの会の役員を務めることは初めての経験で、不安なこともたくさんあったと思います。そんな出口さんに、つばさの会を通してのこの一年を振り返っていただきました。

職員 (以下：職) 昨年5月につばさの会代表者会議が行われ、役員役割を決める際には副会長に立候補しましたが、どのような気持ちでしたか？

出口さん (以下：出) あまり自信はありませんでした。すごく恥ずかしかったです。でも、みんなの作業所を少しでも良くしたいという思いが出てきて、勇気を出して立候補しました。

職：立候補した時はとてもやる気を感じましたよ。そのような中、6月に入りすぐ、新役員が発足したばかりでしたが、会長に就任したなかまの就職が決まり、再度役員を決め直すことになりましたね。話し合いの結果、出口さんがつばさの会の会長となりましたが、その時は少し考えていたようですが、どんな気持ちだったのですか？

出：ぼくは人前で自分の意見を話すのが苦手だったので、それを克服したいという気持ちがあって、「できるかな……」と、すぐには決められなかったです。でも、みんなが協力してくれると言っていたので、頑張ってみようと思いました。実際、会長の仕事をしていく中で、少しずつですが、考えをまとめたり、話したりできるようになってきたと思います。

職：つばさの会の役員を引き受けるに当たって、つばさの会発足以来会長を務めてきた直井さんの存在はどのようなものでしょうか？



出：自治会でも一緒に活動をしていて、厳しいときもあるけど、いい先輩です。直井さんに新しい若い世代でつばさの会を作っていってほしいという話を聞いたことがあり、自分も挑戦してみたいと思いました。

職：作業所に戻ってから、つばさの会会長はどんなことをするのか、話し合いましたね。会長になってみて頑張ろうと思ったことはありましたか？

出：直井さんにこれまでのことを聞いたり、会長はどんなことをするのか職員と話し合いました。出来ることを頑張ろうと思いました。

職：では、今後つばさの会の中で活動していくに当たり、出口さん自信はどんな目標をお持ちですか。お聞かせください。

出：みんながお給料をたくさんもらえるようにしたい。そのために何をしたらいいのか、みんなで考えたい。それから、いろんな施設から来た人と逢って、いろんな話を聞きたい。

職：ちなみに出口さん自信はお給料たくさんもらえたら何をしたいですか？

出：車を買いたい！自分で運転したい！それがぼく自身の夢です。

つばさの会交流会・つばさの会学習会と打合せを通してなかまと協力することで会を盛り上げていくことができ、とてもよい経験になっているようです。会長挨拶も板についてきたように感じます。少しずつですが、会議の場にも慣れ、頼もしい表情を見せてくれることがあり、本人の成長につながっているようです。

つばさの会会長を務めることで、周りの方々からたくさんの助けがありました。だからこそ出口さんは一生懸命取り組めたのではないのでしょうか。また、出口さんの穏やかでひたむきな姿がそうさせるのではないかと切に思いました。これからの目標は、自治会活動や、つばさの会の活動を通して人のために頑張りたいと話していました。 (布野)

2

セルフ・みらい 佐護 操さん

重度の障がいのある子の親としての夢

「夢は」と問われれば、親なきあとも娘が幸せに暮らせること、これに尽きると思います。でも、その前に、だんだん親が年老いて介護が難しくなった時、それぞれが別々に暮らすのか、それともいろいろなサービスを利用しながら一緒に暮らすのか、選択をしなければなりません。



みらいの会でゲーフォ・かわちを見学（前列右から2人目が佐護さん）

現実的には、前者を選らばざるを得ないと思います。でも、親子で暮らすことが可能ならば、私は後者を選びたいと思います。たとえ大人になっても、家庭という安らぎのある場所は必要ではないでしょうか。

娘のように重い障がいがある

と、親の存在は、大きな支えとなっていると思います。施設に通いながら、親と暮らせる手段があれば、それが一番だと思います。

自立支援法も廃止の見通しとなり、また、新しい法律が草案されるとのことですが、ゆりかごから墓場までそれぞれの年代に応じた充実した福祉サービスを受けることのできる法律を望みたいと思います。

もうひとつの夢は、たまには、娘と離れて、友達と旅行にでも行けるといいなあと思います。ショートステイを利用すれば、可能なのですが、なかなか実行できません。近い将来、実現できればいいなあと思っています。

3

けやき作業所 主任 先瀬 和文

1年間の苦労と、新年への抱負

新年、明けましておめでとうございます。

旧年は大変お世話になりました。異動をして初年度ではありましたが、日々の業務では職員に、作業所運営では家族会・後援会・ボランティアさんを中心に支えられ、大きく体調を崩すことなく1年を過ごすことができました。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、政権交代がされ、障害者自立支援法の廃止も現実味を帯びてきたところですが、現法律が施行される前からの地道な署名活動や全国集会などの取組が少なからず影響を与えてきたと思っています。

このような障がい福祉の情勢の中、けやき作業所では経済状況の厳しい方への利用料の徴収・催促や、なかなか上げられない工賃状況に、福祉に携わる者として憤りを感じてきた1年でありました。また、なかまやなかまを支える家族のご逝去も重なり、重い思い出の印象が残る1年でありました。

2010年を迎えるにあたり、仲間の生活を少しでも良くしていくため、工賃を上げていくこと、日中の生活をさらに充実したものにしていくことに力を注いでいきたいと思っています。また、けやき作業所は設立18年目を迎えようとしていますが、引き続き地域の中で役割を果たしていく一助になればと思います。

あまり大きなことはできないかもしれませんが、家族・後援会・地域と関わり合いをもちながらコツコツと地道に前進していきたいと思っています。

本年も皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



お花見にて (後列左が先瀬主任)

こぶしSupporters

後援会
保護者会・ボランティアのページ

サポーターズ

～ こぶしの会を地域の大切な社会資源に育てるため、私たちは強力にバックアップします～

～ 共に働く ～

今回は真岡市にある段ボール製造会社の(有)真岡パックの専務、森田さんを紹介します。

障がい者雇用は8年前から行っているとのこと。現在は、特別支援学校を昨年卒業されて就職した方1名と第2けやき作業所の方1名が就職を目指して3ヶ月(2月末まで)の事業主委託訓練を行っています。障がい者の方と一緒に働く中で気づきや発見についてお話をうかがいました。

○障がい者の方を雇用するきっかけは何だったのでしょうか？

自分の弟が身体障がいでも右手が不自由なんです。それでも会社の中では役割をもってしっかりと仕事できています。障がいをもっていても「仕事はできる」という考えはずっともっていました。ただ、その時は弟以外に障がい者の方を雇用しようとは考えていませんでした。そんな時に、知人のお子さんが障がいをもっていて、その子を採用したのが最初のきっかけです。どんな仕事でもいいから、やらせてほしいということで、その子の母の熱意に負けて採用しました。何もできないと思っていたその子が、徐々に仕事できていくことに感動しました。最初は数も数えることができなかったのに、100まで数えることができるようになったんです。ずーっと付きっきりで教えてあげることができなかったのですが、本人はよくやってくれたと思っています。その子は8年間働いてくれて、会社になくってはならない人になっていました。残念ながら体調を崩して退職することになってしまったのですが、その存在があったからこそ、再度障がい者の方を雇用したいと考えました。



○一緒に働く中で気づきや発見はありましたか？

仕事をしながらも「この仕事はあの子ができるかな？」と考えるようになりました。ちょっとした工夫で障がいをもっている方でもできる仕事があるということに気づきました。また、仕事ができるようになると表情がよくなっていくのが分かるんです。自分に自信がついてくるんだと思うんです。こちらも見ていると嬉しくなりますね。



○一般就労を目指している方々に何かメッセージがあればお願いします。

まずはいろいろと考えすぎないで「一歩踏み出してみよう」ということです。自分に自信がもてない、就職はできないと思ってても可能性はゼロではないと思います。自分に自信をもってチャレンジしてみることでと思います。最初から要領よく作業できる人はいません。徐々に慣れていけばいいと思います。

○最後に

私自身も他の会社で働いていた経験があります。上司から褒められたことがなくて、怒られてばかりいたんです(笑)その当時は素直に聞き入れることができなかったのですが、今振り返ると、そのことで自分が成長できたと思います。怒られることをマイナスだと捉えずに、期待されているとプラスに捉えることができようになってほしい。褒めてくれる人ばかりではないと思うから。辛い思いも経験して成長できるんだと思います。

森田さん、ありがとうございました。今後とも応援よろしくお願いたします。

(河原)

社会福祉法人こぶしの会 設立30年記念 「荒馬座」公演

- 日時 平成22年4月17日(土)
開場：午後0時30分 開演：午後1時30分
- 会場 宇都宮市文化会館大ホール
ホワイエにてこぶしの会の歴史をパネル展示。
また、利用者の作品展示やこぶしの会以外の
事業所で作られた製品の展示即売も行います。
- 入場料 (全席自由) 前売り券 当日券
一般 3,000円 3,500円
小人・障害者 2,000円 2,500円(3歳以下無料)

【お問い合わせ】 社会福祉法人こぶしの会法人設立30年記念「荒馬座」公演実行委員会事務局
宇都宮市柳町町1401 こぶし作業所内 TEL:028-662-1911 FAX:028-662-1912



社会福祉法人
こぶしの会

- こぶし作業所
・知的障害者通所授産施設
・日中一時支援事業
☎ 321-0902 栃木県宇都宮市柳田町 1401
TEL 028 (662) 1911 FAX 028 (662) 1912
E-mail kobushi@chive.ocn.ne.jp
- こぶし作業所生活支援センター
・在宅障害(児)者の相談・支援
☎ 321-3235 栃木県宇都宮市鎌山町字東原 146 - 7
TEL 028 (613) 5703 FAX 028 (662) 1912
E-mail kobushi-sw@tenor.ocn.ne.jp
- こぶしのときわ荘
・知的障害者ケアホーム
☎ 321-0912 栃木県宇都宮市石井町字内野 2867 - 3
TEL 028 (667) 5531
- く る み
・知的障害者ケアホーム
☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 2244
TEL 028 (664) 0414
- け や き 作 業 所
・知的障害者通所授産施設
・日中一時支援事業
☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 2244
TEL 028 (687) 1040 FAX 028 (677) 5789
E-mail keyaki@carrot.ocn.ne.jp
- 生活介護事業 け や き 作 業 所
・生活介護事業
☎ 321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田 1532
TEL 028 (677) 0495 FAX 028 (687) 4818
E-mail inageda@fancy.ocn.ne.jp
- 第 2 け や き 作 業 所
・就労移行支援事業
・就労継続支援 B 型事業
☎ 321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田 1532
TEL 028 (687) 0311
- 県東ライフサポートセンター
「ほっとCHA」
・地域活動支援センター
☎ 321-4305 栃木県真岡市荒町 3 - 9 - 5
TEL 0285 (83) 2567 FAX 0285 (83) 2567
- 県東ライフサポートセンター「真岡」
・地域活動支援センター
☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 2305 - 2
TEL 028 (677) 4430
- す ず ら ん の 家
・知的障害者グループホーム
☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 178
TEL 028 (677) 2876
- け や き ハ イ ツ
・知的障害者ケアホーム
☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 1204 - 4
TEL 028 (677) 0776
- 第 2 け や き ホ ー ム
・精神障害者グループホーム
☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 775 - 2
- コ ー ポ ー ー
・知的障害者ケアホーム
☎ 321-4363 栃木県真岡市亀山 1043 - 23
TEL 0285 (81) 1155 FAX 0285 (81) 1177
E-mail selp-mirai@carrot.ocn.ne.jp
- セ ル プ ・ み ら い
・知的障害者通所授産施設
☎ 321-4364 栃木県真岡市長田 1 - 12 - 5
- ぼ て っ と
・知的障害者グループホーム
☎ 321-4305 栃木県真岡市荒町 110 - 1 市総合福祉保健センター内
TEL 0285 (80) 7765 FAX 0285 (80) 7765
- 芳賀地区障害児者相談支援センター
・在宅障害(児)者の相談・支援
☎ 321-4305 栃木県真岡市荒町 111 - 1
TEL 0285 (85) 8451 FAX 0285 (85) 8452
- 県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」
・障害者の就業相談・支援
☎ 321-0902 栃木県宇都宮市柳田町 1401
TEL 028 (613) 3707 FAX 028 (666) 6128
E-mail sphb8h99@jewel.ocn.ne.jp
- 法人事務局 (総務・企画部)

本会の定款、事業計画、財務諸表等を閲覧ご希望の方は、各事業所までお申し出ください (閲覧時間 8:30 ~ 17:00)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。こぶしだよりの読者のみなさんはどんなお正月をすごされたのでしょうか? 誰も興味ないかと思いますが、私はというと、昨年末に学生時代から使い続けた14インチのテレビとお別れし、ついに地デジが見られるようになりました! そのおかげで、(いままでと比べて)大画面で高画質の映像を堪能した寝正月となりました。それに、ワンタッチでTV録画もできるようになり、買う前は録画機能なんて別に気にしてなかったけれど、何気に重宝しています。1年の最後にいい買い物をしました。

さて、今年はどうと、年が明けて日本の伝統芸能を見る機会がありました。芸術って私にはよくわからない世界ですが、人に魅せる仕事をしている人ってすごいなっていつも思います。自分がどんな状態でもお客様に満足してもらえるように魅せないといけないし、そのために頑張っている。それって、どんな仕事でも同じことかもしれないませんが、でも、魅せる仕事をしている人は特にすごいなって思うのです。演じているときの笑顔や、身の回りの人の笑顔やギャグに知らず知らずのうちに自分は癒されているし、笑うことってほんとに大切なんですよ。私も今年は「笑顔」をキーワードに頑張りたいと思います。(菊地)

編集委員

松本 裕生 河原 とき子 菊地 豊 星野 早苗 稲村 淳彦

発行所 郵便番号一五〇〇三

東京都世田谷区砧六―二六―二一
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価五〇円